

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビューティーカウンセリング		
必修選択	選択	(学則表記)	ビューティーカウンセリング		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	化粧品ブランド資料・カルテ・カウンセリングシート等 筆記用具・ノート…ファイル			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	メイクの業界で求められる人材や接客における言葉使いを学び、また化粧品のブランドについての知識を研究し実践力を身につける。				
到達目標	コミュニケーション(対人)能力を身につける。 接客サービスの提供が出来るようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他3名			実務経験	○
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション メイク業界の仕事とは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール メイクの職種について／どんな人材が必要とされているかを理解する
2	メイクの仕事に就く上での、接客 マナー・注意点など	身だしなみ・接客用語・敬語・気遣いについて知る
3	スキンケア知識対策 化粧品ブランドのグループ分け	化粧品ブランド調べグループに分ける ブランドの特徴を知る
4	カウンセリングとは①	ビフォアカウンセリングとアフターカウンセリング カウンセリング時の注意事項を理解する
5	カウンセリングとは②	信頼されるための話し方・聞き方・関わり方や声のトーンを理解する

6	カウンセリングシート・実践	記入の仕方（お客様に差し上げるシートには何を記入するのか） お客様のお悩みを聞き出し、要望をこたえるスキンケアを選ぶロールプレイング
7	接客マナー①	来店～施術までの動きを知る
8	接客マナー②	前回の復習 施術後～お帰りまでの動きを知る
9	スキンケア知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
10	ベースメイク知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
11	メイク知識対策①	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含)
12	メイク知識対策②	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含) テスト／振り返り
13	化粧品検定級対策① 間違いな美容知識をチェック	クレンジング～化粧くずれの対処法(小項目)
14	化粧品検定級対策② 間違いな美容知識をチェック	自分に似合う色の見つけ方～手や爪の特徴を学ぼう
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定メイク I		
必修選択	選択	(学則表記)	検定メイク I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト) メイクアップテキストアドヴァンス (デジタルテキスト)		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	メイクの基礎知識や技術を学びメイク検定合格をする。		
到達目標	検定の内容に沿ったメイク技術を身につける。 スキンケア・メイクアップテクニックを実践できる。		
評価基準	テスト 30%、検定取得 20%、提出物 30% 授業意欲 20%		
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	メイクアップ検定ベーシック		
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	武中 佑衣 他 3 名	実務経験	○
実務内容	美容部員として長年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	ブレ検定	スキンケア 10 分・フルメイク 34 分行う テスト扱いとする
8	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
9	アドヴァンス検定対策①	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
10	アドヴァンス検定対策②	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
11	アドヴァンス検定対策③	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
12	アドヴァンス検定対策④	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
13	アドヴァンス検定対策⑤	検定テーマに合わせて、テストを行う
14	アドヴァンス検定対策⑥	検定テーマに合わせて、テストを行う 振り返りを行う
15	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアアレンジⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	ヘアアレンジ道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。				
到達目標	ブラッシング・ピンングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目	パーソナルヘア＆メイクⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他 3 名		実務経験	○	
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る

6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピンニング	ホットカーラー反復練習 ピンニング導入
9	ホットカーラー／ピンニング／逆毛	ホットカーラー、ピンニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピンニング／逆毛	ホットカーラー、ピンニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	パーソナルメイク		
必修選択	選択	(学則表記)	パーソナルメイク		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	基礎技術をテーマに合わせる(応用)メイクアップが出来るようになる。				
到達目標	人に似合うメイクが出来るようになる。 お客様やモデルが希望するメイクデザインをその人の顔に合わせて出来るようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目	ベーシックメイクⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他 3 名		実務経験	○	
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション パーソナルメイクとは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 基本プロポーションレクチャー
2	プロポーション	素顔を生かすセルフメイク/プロポーション測定
3	理想のプロポーション	素顔を生かすセルフメイクの実践
4	錯覚Ⅰ	印象チェンジセルフメイク/錯覚メイクの実践
5	錯覚Ⅱ・色の錯覚	錯覚を応用したテクニック/色彩的な錯覚の実践

6	色とトーン	色の持つイメージ・トーンを持つイメージを理解し、各色が持つイメージワードを考え、組み合わせることで、メイクの幅が広がることを理解する。
7	カラーマップ 質感	カラーマップの見方を理解 質感の特徴理解
8	カラーマップに沿ったメイク	前回と違うパターンのメイクをする。
9	ベース作り①	座学 顔写真+自分に合ったベース作り 錯覚メイクのプロポーション理解
10	ベース作り②	前回の資料を元にベースメイク
11	パーソナルメイクアップ①	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
12	パーソナルメイクアップ②	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
13	イメージチェンジ	相モデルでイメージチェンジメイクを実践
14	フルメイク	フルメイクテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社		
	メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）				
科目の基礎情報②					
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す				
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる				
評価基準	テスト 30%、検定取得 20%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック				
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ヘア＆メイク、パーソナルメイク				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他 3 名		実務経験	○	
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う)
8	ブレ検定	スキンケア 10 分・フルメイク 35 分行う テスト扱いとする
9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感について導入、実践 エステ → メイク対策
12	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感について導入、実践 エステ → メイク対策
13	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感についてテスト エステ → メイク対策についてのテスト
14	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感についてテスト エステ → メイク対策についてのテスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エステティックカウンセリングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティックカウンセリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅰ・エステティシヤンのための エステティックカウンセリング(エステのみ)		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。		
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる		
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト 20％・授業態度、提出物など 20％		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	エステティックカウンセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	エステティックカウンセリングⅠ オリエンテーション	オリエンテーション
2	カウンセラーの役割	1. カウンセリングとコンサルティング 2. 「ソワンエステティック」の担い手として 3. 悩みを解決へと導く心理学療法 4. ストレスにより「ホメオスタシス」も低下 5. エステティックサロンに求められているもの
3	心のメカニズムと顧客心理	1. 「意識」「情動」「欲求」 2. 「顧客心理」四つのポイント 3. 聞き上手になろう 4. 話し上手になろう
4	カウンセリングの流れ 1	1. 受付での対応 2. ビフォーカウンセリング

5	カウンセリングの流れ 2	3. 施術中のカウンセリング 4. アフターカウンセリング 1～4 小テスト
6	筆記試験	カウンセラーの役割・心のメカニズムと顧客心理 成績評価①
7	カウンセリングの実際 1	1、サロン内の環境 2、コンサルテーションシート フェイシャル・ボディ メニュー・技術選択の考え方
8	カウンセリングの実際 2	3、肌性及びトラブルに対する判断 4、体型と体質の判断 5、カウンセリング 機器
9	カウンセリングの実際 3	フェイシャルケース 1 (さまざまな肌状態 皮膚学Ⅱがすべて終了している)
10	カウンセリングの実際 4	フェイシャルケース 2 (さまざまな肌状態 皮膚学Ⅱがすべて終了している)
11	カウンセリングの実際 5	ボディケース 1 (循環器系 生理学Ⅱが終了している)
12	カウンセリングの実際 6	ボディケース 2 (肥満・中高年の栄養 栄養学Ⅱで終了している)
13	カウンセリングの実際 7	肌分析・体分析 ケース①
14	カウンセリングの実際 8	肌分析・体分析 ケース②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅱ・エステティシアンのための関連法規 エステティック概論・サロンでの衛生消毒		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 ・経済行為、人の身体に直接関連する法律		
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる		
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト 20％・授業態度、提出物など 20％		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	エステティックカウセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 前期復習※エステ実習の為	オリエンテーション 前期の振り返り 3. 消毒の準備・用具 4. 施術に関わるものの消毒方法
2	衛生管理・衛生管理の実践	1. 手指の衛生措置 2. 手指の洗浄と消毒 3. 消毒剤の効果と特徴
3	関連法規関連法規 「法」の基礎知識 1	1. 社会生活と「法」 2. 法とは社会規範 3. 法の強制力 4. 法の原則
4	関連法規関連法規 「法」の基礎知識 2	5. 日本の資格制度 6. エステティックと法律

5	消費者保護 1	1. 消費者政策 2. エステティックに関連する消費者トラブル
6	消費者保護 2	3. トラブル対応の心得
7	人の身体に直接関連する法律 1	1. 四つの衛生法規 2. エステティックに関わりの深い衛生法規
8	人の身体に直接関連する法律 2	テスト範囲まとめ
9	筆記試験	成績評価① 消費者保護・人の身体に直接関連する法律・法の基礎知識の範囲
10	エステティック業界の 統一自主基準 1	1. 自主基準策定の目的 2. エステティックの定義
11	エステティック業界の 統一自主基準 2	3. 日本エステティック振興協議会の倫理綱領 4. サロン遵守事項
12	経済行為に関する法律 1	1. 商法 2. 集客 3. 個人情報の保護に関する法律
13	経済行為に関する法律 2	6. 消費者契約法 7. 特定商取引に関する法律 8. 割賦販売法
14	筆記試験	成績評価② エステティック業界の統一自主基準～経済行為に関する法律
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	プロフェイシャルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロフェイシャルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ・エステティシンのための フェイシャル技術理論・クリエヌ化粧品セット・タオル類・消耗品 類		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び肌の状態にあった トリートメントを提供できる知識、技術を身につける				
到達目標	エステティシアンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行う ことができる				
評価基準	実技試験 60%(成績評価全 2 回実施)小テスト 20%、授業態度・提出物 20%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	AEA 上級認定エステティシアン AJESTHE 認定上級エステティシアン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	プロフェイシャルⅠ オリエンテーション	前期復習・オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について ポイントメイククレンジング
3	ディープクレンジング(粒子有・無し)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔(粒入り・無し) 練習: フェイシャルマッサージ・マスクーふき取りー誘導
4	ディープクレンジング(酵素)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔(酵素) 練習: フェイシャルマッサージ・マスクーふき取りー誘導

5	ディープクレンジング 練習	ケースワーク
6	実技試験	ケースワーク成績評価①
7	ディープクレンジング(ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 キッシング
8	ディープクレンジング(ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 フリマツール
9	ディープクレンジング(電気)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 エレクトロクレンジング・デイスインクラステーション
10	ディープクレンジング 総合	ケースワーク
11	実技試験	成績評価②
12	スキンチェック	クレンジング後のスキンチェック方法導入
13	ケーストレーニング	肌分析 ケースワーク
14	ケーストレーニング	肌分析 ケースワーク
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	プロボディⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロボディⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	クリエース化粧品 マッサージオイル・タオル類・消耗品類・採寸用メジャー、新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ エステティシンのためのボディ技術理論		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	全身のマッサージを学び、採寸から分析しクライアントに合わせたマッサージを提供する。注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける				
到達目標	エステティシアンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合った手技を組み合わせたマッサージを行うことができる				
評価基準	実技試験 60%(成績評価全 2 回実施)小テスト 20%、授業態度・提出物 20%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	AEA 上級認定エステティシアン AJESTHE 認定上級エステティシアン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返り/前操作デモンストレーション
2	腰背部マッサージ 導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
3	腰背部マッサージ 練習	通し練習 下肢後面～腰背部
4	下肢前面マッサージ 導入	デモンストレーション・手技・拭き取り

5	下肢前面マッサージ 練習	通し練習 腰背部～下肢前面
6	実技試験	成績評価① 腰背部～下肢前面
7	上肢マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
8	腹部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
9	デコルテ・頭部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
10	マッサージ総合	上肢～腹部～デコルテ・頭部
11	マッサージ総合	下肢後面・腰背部・下肢前面・上肢・腹部・デコルテ・頭部マッサージの不足箇所の練習
12	実技試験	成績評価② 総合
13	ボディチェック（採寸含む）	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の デモンストレーション・実践 マッサージ練習
14	ボディチェックを含めた総合授業	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の実践 コンサルテーション・マッサージ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	アロマセラピーⅠーG		
必修選択	選択	(学則表記)	アロマセラピーⅠーG		
開講			単位数	時間数	
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	アロマセラピー検定公式テキスト 1 級 エッセンシャルオイル入門検定 1 級 A/B セット		出版社	公益社団法人 日本アロマ環境協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	アロマセラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマセラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ				
到達目標	アロマセラピーを家族や周囲の人々ともに楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる				
評価基準	筆記試験 60％・精油小テスト 20％・授業態度、提出物など 20％				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	アロマセラピー検定 1・2 級				
関連科目	プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・エスティックカウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	アロマセラピーオリエンテーション 第1章 イントロダクション	・アロマセラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第2章 エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン クラリセージ グレープフルーツ）
3	第2章 エッセンシャルオイル 第3章 セーフティ 第4章 プラクティス 1	・精油の選び方、自然環境との関係、安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サンダルウッド）
4	同上	・注意すべき対象者、保管方法 基材について ・精油のプロフィール（ジュニパーベリー・スイートオレンジ）
5	第5章 メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み 成績評価①

6	第 6 章 ビューティーク & ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第 7 章 ヒストリー 1	・アロマテラピーの歴史（エジプト、ギリシャ、ローマ、インド、中国） ・精油のプロフィール（ネロリ）
8	第 7 章 ヒストリー 2	・アロマテラピーの歴史（アラビア・イスラム社会、中性ヨーロッパ、日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ペパーミント）
9	第 7 章 ヒストリー 3	・アロマテラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット）
10	第 7 章 ヒストリー 4	・アロマテラピーの歴史（現代 アロマテラピーの誕生） ・精油のプロフィール（ユーカリ・ラベンダー）
11	第 8 章 関連法規 1	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第 8 章 関連法規 2	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第 4 章 プラクティス 2	・アロマテラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマテラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第 1 章から題 8 章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アロマセラピー I		
必修選択	選択	(学則表記)	アロマセラピー I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	アロマセラピー検定公式テキスト 1 級 エッセンシャルオイル入門検定 1 級 A セット			出版社	公益社団法人 日本アロマ環境協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	アロマセラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマセラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ				
到達目標	アロマセラピーを家族や周囲の人々とともに楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる				
評価基準	筆記試験 60%・精油小テスト 20%・授業態度、提出物など 20%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	アロマセラピー検定 1・2 級				
関連科目	プロフェイシャル I・プロボディ I・エスティックカウンセリング I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アロマセラピーオリエンテーション 第 1 章 イントロダクション	・アロマセラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第 2 章 エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン クラリセージ グレープフルーツ）
3	第 2 章 エッセンシャルオイル 第 3 章 セーフティ 第 4 章 プラクティス 1	・精油の選び方、自然環境との関係、・安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サイプレス・サンダルウッド・ジャーマンカモミール）
4	同上	・注意すべき対象者、保管方法 基材について ・精油のプロフィール（ジャスミン・ジュニパーベリー・スイートオレンジ）
5	第 5 章 メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み 成績評価①

6	第6章 ビューティー＆ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第7章 ヒストリー 1	・アロマセラピーの歴史（エジプト、ギリシャ、ローマ、インド、中国） ・精油のプロフィール（ネロリ・パチュリ・ブラックペッパー）
8	第7章 ヒストリー 2	・アロマセラピーの歴史（アラビア・イスラム社会、中性ヨーロッパ、日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ペチパー・ペパーミント）
9	第7章 ヒストリー 3	・アロマセラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット・ベンゾイン・ミルラ）
10	第7章 ヒストリー 4	・アロマセラピーの歴史（現代 アロマセラピーの誕生） ・精油のプロフィール（メリッサ・ユーカリ・ラベンダー）
11	第8章 関連法規 1	・アロマセラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第8章 関連法規 2	・アロマセラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズオットー・ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第4章 プラクティス 2	・アロマセラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマセラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第1章から題8章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	スカルプチュア		
必修選択	選択	(学則表記)	スカルプチュア		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	JNEC 1 級課題となるスカルプチュア・イクステンションの基礎を学び、知識とともに技術向上を目指し、アクリリックの特性を理解して施術が出来る				
到達目標	JNEC 1 級取得を目指すとともに、サロンワークで通用する技術をマスターする				
評価基準	授業態度他 10％・筆記テスト 30％・実技テスト 60％				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級・2 級・1 級				
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・検定対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	導入 リペア	授業の目的・グルーオン・シルクラップ・オフ デモ・実技
2	チップラップ①	チップオン・チップラップデモ・実技ハンド
3	チップラップ②	チップラップ (ハンド・相モデル)
4	チップラップ③	チップラップ (相モデル)
5	教材説明 スカルプ理論 ミクスチュアデモ	教材の説明、スカルプ理論・ミクスチュアの取り方

6	オーバーレイ①	デモ・オーバーレイ実技（ハンド）
7	オーバーレイ②	オーバーレイ実技（ハンド）
8	オーバーレイ③	オーバーレイ実技（相モデル）
9	スカルプチュア①	スカルプチュアデモ・実技（ハンド）
10	スカルプチュア②	スカルプチュア実技（ハンド）
11	スカルプチュア③	スカルプチュア実技（相モデル）
12	実技テスト	実技テスト
13	筆記テスト スカルプチュア④	筆記テスト スカルプチュア実技（相モデル）
14	スカルプチュア⑤	スカルプチュア実技（相モデル）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ネイルケア&ネイルアートⅠ-F		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイルケア&ネイルアートⅠ-F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	JNEC2級検定へ向けて、ニッパーのハンドリングやファイリング技術の強化と共に、様々なネイルアート（フラット）を描くことが出来る				
到達目標	2級レベルのネイルケア技術（お金を頂くことが出来る技術力）と与えられた課題のアートが描ける				
評価基準	作品提出 30%・授業態度他 10%・筆記テスト 30%・実技テスト 30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	・JNEC ネイリスト検定 3級・2級・1級				
関連科目	検定対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ケア・カラー復習①	基礎技術の確認と3級検定に向けての総仕上げ（2級対応・プッシャーニッパー強化）
2	ケア・カラー復習②	基礎技術の確認と3級検定に向けての総仕上げ（2級対応・プッシャーニッパー強化）
3	カラーデモ・実技	パールホワイト・マットピンク・ナチュラルスキンカラーの塗り方デモ・実技
4	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	2級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ チップにて過去の2級アートのテーマにて作品制作を行う
5	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	2級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ チップにて過去の2級アートのテーマにて作品制作を行う

6	ケア実技①	実技（ケア・カラー・アート）
7	ケア実技②	実技（ケア・カラー・アート）
8	ケア実技③	実技（ケア・カラー・アート）
9	ケア実技④	実技（ケア・カラー・アート）
10	ケア実技⑤	実技（ケア・カラー・アート）
11	JNEC 2 級検定実技①	ポリッシュオフ～カラーリング・アート（タイムトライアル）
12	JNEC 2 級検定実技②	ポリッシュオフ～カラーリング・アート（タイムトライアル）
13	実技テスト	実技テスト
14	実技テスト・筆記テスト	実技テスト・筆記テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定対策Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	JNEC 3 級検定を取得し、更なる上の級や JNA ジェル検定初級の取得を目指し、 ネイリストとしての基礎の完全にマスターし、実践できる				
到達目標	JNEC 2 級・JNA ジェル初級の取得及びサロンワークで通用する基礎技術の習得				
評価基準	3 級検定結果 30％・授業態度他 10％・筆記テスト 30％・実技テスト 30％				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級・2 級・1 級				
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・ジェルネイルⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	JNEC 3 級検定実技①	JNEC 3 級検定に向けて最終練習
2	JNEC 3 級検定実技②	JNEC 3 級検定に向けて最終練習
3	検定注意事項・2 級検定デモ	JNEC 2 級検定に向けて筆記対策と共に検定要項に沿い注意事項を確認 基礎的な技術を復習し完全にマスターしていく
4	JNEC 2 級対応ケア実技	2 級対応ケア練習 ラウンド/プッシャー/ニッパー強化
5	チップラップ①	プレパレーション、チップラップデモ・実技

6	チップラップ②	チップラップ実技
7	チップラップ③	チップラップ相モデル
8	JNEC2 級検定後半実技①	2 級検定後半実技 チップラップ・カラー・アート
9	JNEC2 級検定後半実技①	2 級検定後半実技 チップラップ・カラー・アート
10	ジェル初級検定実技または 2 級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または 2 級実技試験の実技の練習を行う
11	ジェル初級検定実技または 2 級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または 2 級実技試験の実技の練習を行う
12	2 級検定検定注意事項 筆記テスト	検定要項に沿い注意事項を確認
13	実技テスト	実技テスト
14	実技テスト	実技テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ジェルネイル I		
必修選択	選択	(学則表記)	ジェルネイル I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	ジェルの基礎を学び知識とともに技術向上を目指し、 特性を理解して説明して施術が出来る				
到達目標	ネイルの基礎的な知識・技術を理解し、ジェル検初級取得を目指す				
評価基準	初級検定結果 30%・授業態度他 10%・筆記テスト 30%・実技テスト 30%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級・2 級・1 級				
関連科目	ネイルケア&ネイルアート I・検定対策 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・教材説明・セッティング・初級実技試験	教材説明、セッティングについて、ジェル初級の内容を理解する
2	ジェル講義 ジェル実技①	ライトで硬化するジェルシステムをジェルネイルテキストで学ぶクリア・カラー デモ・実技 ハンドチップの装着方法と使い方
3	ジェル実技②	クリア・カラー実技、オフの仕方デモ・実技
4	ジェル実技③	ジェルカラー相モデル
5	ジェルアート① 講義・デモ	ピーコック・フラワーなどのジェルアートの基礎を学ぶ

6	ジェルアート②	ピーコック・フラワーなどのジェルアートの基礎を学ぶ
7	ジェル検定初級検定説明・デモ	ジェル検定初級内容を学ぶ
8	ジェル検定初級検定実技①	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する
9	ジェル検定初級検定実技②	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する
10	筆記テスト ジェル検定初級検定実技③	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する 筆記テスト
11	実技テスト	実技テスト
12	ジェル検定中級①	中級検定について内容を理解する フレンチ・グラデーション デモ・実技
13	ジェル検定中級②	ハンドにグラデーション実技
14	ジェル検定中級③	ハンドにフレンチ実技
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	コンテスト I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテスト I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業内で技術を磨き競わせ、自身で諦めない気持ちやモチベーションを向上させ維持することを実践できる				
到達目標	コンテスト入賞				
評価基準	授業態度 20%・実技テスト 60%・アート作品 20%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNA ジェルネイル検定初級・JNEC ネイリスト検定 3 級				
関連科目	ネイルケア & ネイルアート I・検定対策 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入	コンテストについての説明と意識付けモデル選びのポイント 今後のコンテストの予定・ハンドの仕込みについて
2	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
3	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
4	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
5	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する

6	ケア・カラー 実技テスト	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する 実技テスト
7	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
8	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
9	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
10	アート 作品提出	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する 作品提出
11	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
12	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
13	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
14	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	フェイシャル&ボディ I		
必修選択	選択	(学則表記)	フェイシャル&ボディ I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	クリエース化粧品セット・消耗品類 教科書 新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ			出版社	日本エステティック協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントを理解する。				
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる				
評価基準	実技試験 60%(成績評価全 2 回実施)小テスト 20%、授業態度・提出物 20%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フェイシャル&ボディ I オリエンテーション	前期復習 オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について (ジェル・クリーム・オイル)
3	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔 (粒入り・無し)
4	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔 (酵素)

5	通し練習	通し練習 肌に合わせた選択をする クレンジングーディープクレンジングーマッサージー拭き取りー整肌
6	通し練習	通し練習 肌に合わせた選択をする クレンジングーディープクレンジングーマッサージー拭き取りー整肌
7	フェイシャル実技試験	成績評価①
8	下肢（後）マッサージ復習	前期復習 ご案内-下肢マッサージ-ふき取りー誘導
9	腰背部マッサージ 導入	腰背部マッサージデモンストレーション
10	腰背部マッサージ 練習	下肢後面・腰背部 マッサージ練習
11	腹部マッサージ 導入	腹部マッサージデモンストレーション
12	腹部マッサージ 練習	腰背部・腹部 マッサージ練習
13	マッサージ総合	下肢後面～腹部 通し練習
14	ボディ実技試験	成績評価②
15	総合授業	総合復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ネイルアート I		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイルアート I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	JNEC 3 級のアートに加えて、更に上級検定やサロンで通用するネイルアートの技法を 学び習得し、アートでの色使いや筆の使い方を習得する				
到達目標	与えられた課題でポリッシュやペイントアートが出来る				
評価基準	アート作品 30%・授業態度他 10%・筆記テスト 30%・実技テスト 30%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級・2 級				
関連科目	生理学・皮膚学・ネイル演習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC 3 級検定実技①	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
2	JNEC 3 級検定実技②	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
3	JNEC 3 級検定実技③	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
4	JNEC 3 級検定実技④	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
5	ポリッシュカラーリング①	カラー（マットピンク・ホワイトなど）相モデル

6	ポリッシュカラーリング②	カラー（パールカラー・ナチュラルスキンカラーなど）相モデル
7	ポリッシュカラーリング③	アート（フレンチ・マーブル）相モデル
8	ポリッシュカラーリング④	アート（グラデーション・ウォーターマーブル他）相モデル
9	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	2 級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ。 シートにて練習後チップにて作成過去の 2 級アートのテーマにて作品制作を行う。
10	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	2 級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ。 シートにて練習後チップにて作成過去の 2 級アートのテーマにて作品制作を行う。
11	実技テスト練習	ケア・カラー・アート練習
12	実技テスト	授業の総復習としてケア・カラー・アートの実技テストを行う
13	実技テスト	授業の総復習としてケア・カラー・アートの実技テストを行う
14	筆記テスト	筆記テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ネイル演習		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイル演習		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	JNEC 3 級の取得をして、更に上級の JEC 2 級検定へ向けて付け爪などの技術を習得し、より深くネイルケアの大切さを理解する				
到達目標	JNEC 2 級レベルのケアやアートが出来る				
評価基準	3 級検定結果 30%・宿題/授業態度他 10%・筆記テスト 30%・実技テスト 30%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級・2 級				
関連科目	生理学・皮膚学・ネイルアート I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC 3 級検定実技①	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
2	JNEC 3 級検定実技②	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
3	JNEC 3 級検定実技③	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
4	JNEC 3 級検定実技④	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
5	シルクラップ①	プレパレーションデモ リベア(シルクラップ)デモ・実技(自爪)

6	シルクラップ②	リベア（シルクラップ）相モデル
7	チップラップ①	チップラップデモ・実技(自爪)
8	チップラップ②	リベア(チップラップ)相モデル
9	チップラップ③	リベア(チップラップ)相モデル
10	トリートメント①	ハンドトリートメント講義・デモ、ハンドトリートメント実技
11	トリートメント②	ケア・トリートメント・カラー
12	実技テスト①	実技テスト(ケア・カラー・チップラップ)
13	実技テスト①	実技テスト(ケア・カラー・チップラップ)
14	筆記テスト	筆記テスト
15	総合授業	これまでの総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パーソナルヘア&メイク I		
必修選択	選択	(学則表記)	パーソナルヘア&メイク I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式 ヘアアレンジテキスト			出版社	ユアサポート

科目の基礎情報②

授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。				
到達目標	ブラッシング・ピンングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目	ヘアアレンジ I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他 3 名			実務経験	○
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る

6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入
9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定メイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定メイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す				
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる				
評価基準	テスト 30%、検定取得 20%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック				
関連科目	検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ、ヘア&メイク				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武中 佑衣 他 3 名			実務経験	○
実務内容	美容部員として長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
8	プレ検定	スキンケア 10 分・フルメイク 35 分行う テスト扱いとする
9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	色、質感	色、質感について導入、実践
12	色、質感	色、質感について導入、実践
13	フルメイク	フルメイクまとめテスト
14	フルメイク	フルメイクまとめテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スマホフォト技術		
必修選択	選択	(学則表記)	スマホフォト技術		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	スマートフォンを使って作品撮りや自撮りのテクニックを身に付ける				
到達目標	実際にインスタグラムのアカウントを作成し、投稿するための撮影技術やレイアウト、コラージュの仕方を学び投稿する。 効果的な投稿ができるようになり、フォロワーを増やすことができる力を身に付ける。				
評価基準	テスト・小テスト：60％ 授業態度：20％ レポート・課題など：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	WEB・SNS・フォトスキル、スマホ・フォト技術				
備考					
担当教員	河内 瞭		実務経験	○	
実務内容	美容メーカー就職後、2016年より大手広告代理店にてInstagram マーケティングを担当。その後美容室経営、専門学校でのSNS セミナーを担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 目的の設定	InstagramやSNS で集客するために
2	ペルソナの設定	見てもらいたいターゲットを決める
3	プロフィール作成	ペルソナ設定をした上で、ターゲット層へ向けてのプロフィールを作成する
4	惹きつける物の写真の撮り方①	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
5	惹きつける物の写真の撮り方②	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
6	惹きつける人物写真の撮り方①	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について

7	惹きつける人物写真の撮り方②	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
8	効果的な投稿のあげ方①	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
9	効果的な投稿のあげ方②	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
10	ストーリー配信について	短編動画や写真を加工し有効的なストーリーを作成、使い方、機能の紹介
11	リール機能の効果的な使い方	30 秒の短編動画を撮影し効果的な投稿について学ぶ
12	ライブ配信について	ライブ配信をする際のポイントや効果的な方法を学ぶ
13	成績評価	理解度の確認
14	フォロワー数について	フォロワーを上げるコツ、効果的な投稿をし続けられるために
15	総復習	これまでのまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	自己プロデュース		
必修選択	選択	(学則表記)	自己プロデュース		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	客観的な分析力と表現力を身に付ける				
到達目標	・プロデュースとは何かを理解する ・自分自身のセールスポイントを理解し、人に伝えられるようになる				
評価基準	テスト・小テスト：60％ 授業態度：20％ レポート・課題など：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	WEB・SNS・フォトスキル、スマホ・フォト技術				
備考					
担当教員	岡 真帆			実務経験	○
実務内容	トータルビューティーサロンにて4年間ビューティーコンシェルジュとして勤務後、三幸学園に入職。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 自己プロデュースとは	講師の自己紹介 授業概要の説明 自己プロデュース能力の重要性について
2	自己分析①	自分の現状を知る
3	自己分析②	理想の将来像を考える
4	ブランドとは	ブランドの価値を学ぶ ブランド発想を身に付ける
5	ブランドのマネジメント	ブランドづくりのマネジメント（PDCA）を身に付ける コンセプトの重要性を学ぶ

6	ブランドとネーミング	ネーミングを実践する 自分を表すキャッチコピーを作成する セルフブランディング能力を身に付ける
7	成績評価①	理解度の確認
8	セールスライティング①	伝える技術を身に付ける ベネフィットの重要性を学ぶ
9	セールスライティング②	お客様がサービスを受けたいと思う理由を考察する USP（唯一無二のセールスポイント）の重要性を学ぶ 売れる文章の書き方を実践する
10	アナウンススキル	笑顔と笑顔を身に付ける
11	プレゼンテーション①	PREP 法を身に付ける プレゼンテーションとは何かを学ぶ
12	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実践する フィードバック
13	インフルエンس	どのような構造でインフルエンсされているのかを学ぶ SNS のトレンドと傾向を知る
14	成績評価②	理解度の確認
15	総合授業	これまでのまとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	パーソナルスタイル		
必修選択	選択	(学則表記)	パーソナルスタイル		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	自分史上最高のキレイが手に入る 「顔」タイプメイク（教員のみ）		出版社	かんき出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	顔のパーツを最も美しく引き立てるメイク・理論を習得する				
到達目標	様々な顔タイプの知識を習得し似合うメイクを診断できる 美容現場でお客様へのアドバイス材料の一つとして提案ができるようになる				
評価基準	テスト・小テスト：70％ 授業態度：10％ 提出物：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	カラーコーディネートⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	顔タイプ診断とは	顔タイプ診断について学ぶ
3	似合うメイクについて	似合うメイクについて学ぶ
4	顔タイプ「キュート・フレッシュ」	顔タイプ「キュート・フレッシュ」について学ぶ
5	キュートのメイク法	キュートのメイク法について学ぶ

6	フレッシュのメイク法	フレッシュのメイク法について学ぶ
7	顔タイプ「フェミニン・クール」	顔タイプ「フェミニン・クール」について学ぶ
8	フェミニンのメイク法	フェミニンのメイク法について学ぶ
9	クールのメイク法	クールのメイク法について学ぶ
10	ケーススタディ	診断実演を行う
11	自己診断（パーソナルカラー含む）	自分の顔タイプ・パーソナルカラーを診断する
12	個人ワーク 成績評価①	自分の顔タイプ結果をコラージュを作成する
13	メイクの実践	メイクを行う
14	テスト 成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	ビューティーフード		
必修選択	選択	(学則表記)	ビューティーフード		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	完全菜食があなたと地球を救う ヴィーガン(教員のみ)		出版社	ロングセラーズ	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容と健康に効果的な食の伝統と知識・食事法を理解する				
到達目標	ヴィーガンを理解し、食事メニュー構成が出来るようになる				
評価基準	テスト・小テスト：70% 授業態度：10% 提出物：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	ベジタリアンとヴィーガンの歴史	ベジタリアンとヴィーガンの歴史とタイプについて学ぶ
3	肉食のデメリット・菜食のメリット①	肉食のデメリットを学ぶ
4	肉食のデメリット・菜食のメリット②	菜食のメリットを学ぶ
5	菜食の生活習慣予防効果	菜食の生活習慣予防効果について学ぶ
6	テスト 成績評価①	テストを実施し理解度の確認を行う

7	日本のヴィーガンの歴史	日本のヴィーガンの歴史について学ぶ
8	ヴィーガンに不足する栄養素とは	ヴィーガンに不足する栄養素について学ぶ
9	日本菜食「雑穀」について	日本菜食「雑穀」について学ぶ
10	砂糖の影響	砂糖・塩などの調味料や添加物の影響について学ぶ
11	七つの食習慣と 5 つの基本と 七つのキーフード	七つの食習慣と 5 つの基本と七つのキーフードについて学ぶ
12	テスト 成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
13	個人ワーク	個人ワークを行う
14	プレゼン準備	プレゼン発表の準備を行う
15	プレゼン発表と総まとめ 成績評価②	プレゼンの発表と総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	実技	科目名	サロンワーク I - F		
必修選択	選択	(学則表記)	サロンワーク I - F		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する				
到達目標	お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る				
評価基準	授業態度他 20％・接客態度他 40％・技術レベル 40％				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNA ジェルネイル検定初級・JNEC ネイリスト検定 3 級				
関連科目	ネイル教科全般				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	JNEC 3 級検定実技①	JNEC 3 級検定に向けて最終練習
2	JNEC 3 級検定実技②	JNEC 3 級検定に向けて最終練習
3	JNEC 3 級検定実技③	JNEC 3 級検定に向けて最終練習
4	導入 サロン運営とは①	カウンセリング・プロとしての身だしなみ・心構え・言葉遣いなど
5	導入 サロン運営とは②	道具の管理・予約票・カルテ管理・集客方法(SNS 活用)など

6	バーチャルサロン準備①	グループに分かれてバーチャルサロンを立ち上げる
7	バーチャルサロン準備②	グループに分かれてバーチャルサロンを立ち上げる
8	バーチャルサロン	グループ発表 教室をサロンに見立ててシミュレーション
9	サロンワーク技術①	ジェルアートサンプル作り
10	サロンワーク技術②	ジェルアートサンプル作り
11	サロンワーク技術③	パラフィン・トリートメントについて
12	サロンワーク技術④	パラフィン・トリートメントについて
13	サロンワーク技術⑤	模擬サロン・ロープレ
14	サロンワーク技術⑥	模擬サロン・ロープレ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ-Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ-Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティーク	1	45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。				
評価基準	企業側評価60% 学校側評価40% (ビジネスマナー20%・各コース該当項目20%)				
認定条件					
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ	インターンシップ
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティーク	1	45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。				
評価基準	企業側評価60% 学校側評価40% (ビジネスマナー20%・各コース該当項目20%)				
認定条件					
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ	インターンシップ
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ-Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ-Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティーク	1	45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。				
評価基準	企業側評価 60% 学校側評価 40% (ビジネスマナー 20%・各コース該当項目 20%)				
認定条件					
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ	インターンシップ
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ-Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ-Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティーク	1	45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。				
評価基準	企業側評価 60% 学校側評価 40% (ビジネスマナー 20%・各コース該当項目 20%)				
認定条件					
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ	インターンシップ
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		